

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あがたの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県対馬市上県町佐須奈乙462番地2
記入者名 (管理者)	若松 久 (介護支援専門員 須川 こずえ)
記入日	平成 20年 12月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者には個々の生活暦を考慮し、地域生活と変わりなくホーム内でも同様に生活でき、個々を尊重した理念の重要性と強化に努めている。		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、ホーム運営の理念を理解しその理念に基づき、日々研鑽に努め、サービスの中で、質の向上や職員の意識付けを行っている。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設パンフレットや広報誌にて施設の理念を紹介しており、ご家族に対しては入居の際に説明をさせて頂いている。	○	理念に添った援助を行い、広報誌などにより施設を理解して頂ける様、努める。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常から挨拶や会話にてコミュニケーションをとり、親交を深めている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動行事への参加はご利用者が大勢の中に入ることを好まれなかったり、その日の気分等により、外出を拒まれる等、地域の一員として、皆さんと一緒に活動に参加できる状況に作り上げるにはかなりの努力が必要であり、現状では不可能に近い。	○	ホーム内だけでなく、地域との交流を通し、活気のある生活が継続できるよう、考慮しなければならないが、己から自分の意志の伝達出来るよう、指導も助言も必要であり、勇気ある行動出来るよう、その際にはご家族の承諾を得ることとする。

グループホームあがたの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域高齢者との交流がなく、取り組んでいない。	○	地域に開けたホームを目指し、気軽に相談できる場所としてどう取り組むべきか考慮していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	改めて、ホームを見直す機会であり、その結果を今後、どのように活かせばよいか、改善点など明確にでき、職員全体で質の向上へと考慮しながら、取り組んでいる。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進委員会では可能な限りの情報提供に努め、意見を反映できる様、取り組んでいる。	○	会議での意見が多く聞けるよう配慮したいと考えている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当との連携は十分ではないが、不明な点など連絡を取り、解決するよう努力している。	○	市町村担当者に施設の考えやあり方を理解して頂き、情報共有できる関係を構築して行きたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護事業はすでに活用しており、なぜ、そのご利用者に必要なのか理解している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	個々の人権尊重の視点から理解し、そのような行為がない様、支援させて頂いている。		

グループホームあがたの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居希望のご利用者、ご家族には事前に質問、疑問点となる部分にお答えし、理解して頂き、納得の上、入居となる様、対応を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者からの意見等はその都度、職員間にて報告があり、問題解決に努め、運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康管理については、職員全員での食事の見直し等を行ったり、病院への定期受診、体調不良時の病院受診を行っている。また金銭管理については、権利擁護事業(社協)に依頼している。人事異動に関しては市、家族への報告も行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今日まで、苦情等は受けたことがなく、ご家族への連絡は細めに行い、要望等にも対応できる様にしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議及びミーティング等にて、意見や要望を聞き、運営に反映している。</p>	<p>○ 今後もより良い運営を行う為、会議等の内容を充実させていきたいと考えている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>生活サイクルを考慮に入れ、勤務体制を組み入れ、対応に落ち度のない様、配慮している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮しながら、業務を行い、異動等あった場合は、ご利用者とのコミュニケーションに努め、信頼関係を構築している。</p>	

グループホームあがたの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修は、勤務年数や職責に応じて研修に参加し、学んだことを復命書として提出し、他の職員にも伝え、お互いに知識の向上を図れるよう、努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内での研修等に参加し、他施設との情報交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後もサービスの質の向上、情報共有の場として、交流会などへの参加をしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>一人で抱え込まずにコミュニケーションを多く取り、従事しやすい環境を配慮し、工夫している。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員同士の信頼関係を大事にし、働き続けられる環境を全員で作ってあげていきたいと考えている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>知識や技術はもちろんのこと、研修への参加により、習得するものは常にあることを認識し、お互いに向上できる様、取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>研修への参加や同業者との交流にて、一人一人の質を高めていきたいと考えている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人がどのような状況におかれているのかを把握し、意向や要望に添える様、コミュニケーションを多くとり、ご利用者自身を良く知ること、信頼感を構築し、支援へと結びつけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族との連絡などは緊密にとり、安心できる支援内容を話し合い、意向等に添える様、努めている。</p>	

グループホームあがたの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態に応じ、適切なサービスを見極め、ご利用者、ご家族と検討し、提供させて頂く様、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時、要望等を確認し、慣れ親しんだ物を持ち込み、ご利用者の住み慣れた環境に近づけるよう、住環境を整え、他ご利用者とのコミュニケーションの機会を増やすなど工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者のできない部分を支援させて頂くことを頭に置き、残存機能を活かし、共存という意味でも相互に思いやりや助け合い共に生活を楽しむことができる様、支援を行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設側、ご家族側がご利用者の情報を共有できるよう連絡を行い、施設側だけでは困難なメンタルな部分の支援をサポートして頂くなど共にご利用者の支えとなる様、努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者、ご家族の関係を重要視し、良い関係が保てる様、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者と共にドライブや散歩で住み慣れた土地を訪れたり、馴染みの存在を忘れることのない様、支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者間に嫌悪感などが生じない様に配慮し、個々の特徴を生かし、共に生活できるよう支援している。		

グループホームあがたの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お互いに情報交換を行い、支援を要する状態になった場合、スムーズに対応できる様、行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、ご利用者の訴えを見逃さないよう、心がけ、より良い暮らしやすさや、安心できる空間、その人らしさを尊重できる様、職員全員で検討し、ご家族との連携を取りながら、支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	より良い生活環境、その人らしさの暮らし方を提供できる様、情報収集を経て、職員全員が把握し、支援に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングの報告と共に、日誌への記録にて、ご利用者の状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者本人やご家族からの要望を取り入れた計画作成や、職員間で出された必要とされるケアをまとめ、計画作成に従事している。	○	ご利用者のより良い暮らしが提供出来る様、職員一人一人が認識し、ご利用者の状態にあった支援方法を考慮し、実践して行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題がなければ、期間に応じて見直しを行い、問題が生じた場合はその都度、話し合いを行う様にしている。ご家族からの要望が少なく、施設側からの説明で納得される。	○	些細な意見でも、ご家族やご利用者から聞けるよう、配慮に努め、要望の伝えやすい状況を作りたいと思う。

グループホームあがたの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や一日の状態がみてわかる様、表を作成し、個々の状態を記録している。また、様子変化に伴い、プランの見直しや対応方法を考慮している。	○	個々にあったプラン作成を実践し、状態の変化を見逃さないよう、記録の内容を増やし、その人らしさを活かした支援ができる様、記録の重要性を再認識し、意識付ける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との連携をとりながら、その状況に応じ、医療機関への送迎、受診対応など必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人が安心して活気にあふれた生活が継続できるよう、周囲の方々や各機関などへの協力を求めている。	○	今後、地域に開けた施設を目指し、あらゆる社会資源の協力を求め、ご利用者の住みやすく楽しみの持てる様、支援して行きたいと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者自身に関して、他のサービス事業者との話し合いを行ったことがない。	○	今後、必要に応じて情報交換や相互を理解する為にも、連携を深めて行けるよう努力したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加を要請し、施設の概要や状況を把握して頂き、適切なアドバイス等を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人と協議の上、協力医療機関へ受診対応し、適切な治療を受けることができる様、支援している。		

グループホームあがたの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>認知症での治療が必要とされる方が、見受けられる場合は迅速に対応をしていきたいと思う。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>緊急時の対応を職員全員が理解を深め、戸惑うことなく迅速に対応できる様、指導を続ける。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>情報だけでなく、面会にご利用者の状態把握を今後も行っていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後、重度化・終末期の対応方法に関して、ご家族との話し合いの上、明確にしておくべきだと考えている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>施設生活を望まれるご利用者を支援する為、医療機関や他サービスとの情報交換を行い、協力体制を整える必要があり、状態変化に対応できる環境整備に努めていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>様々な施設との交流を深め、相互に情報を共有したり、ケアの向上に努め、協力体制を整えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>人権尊重とプライバシーの保護に関しては、職員一人一人が認識し、損なうことのない様、介護に従事している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>介護側が無理強いすることなく、ご利用者に尋ね、意見を尊重するよう、心掛けている。また、意思疎通の困難な方に対しては、ジェスチャーで問い掛けたり、表情の変化によって、対応している。</p>	○	<p>今後もより多くのご利用者の意見を反映出来る様、支援を行いたいと思っている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>ご利用者一人一人のペースで生活できるよう、職員はご利用者を第一に考え支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>常に整容には気を配り、行っている。里美容に関しても、散発の時期など、ご本人と相談の上、対応させて頂く。意思疎通の困難な方に対しては、施設側で話し合い、対応している。</p>	○	<p>衣類購入時などの買い物の機会を作り、ご本人が選べる様、支援していきたい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>献立に季節の物を取り入れるなど、工夫を行っている。準備や片付けはご利用者の状態上、困難なである。しかし、一部のご利用者は下膳をして協力をして下さる。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>飲み物やおやつ等、多種多様に対応している。おやつでは市販の物や手作りのおやつを提供しており、喜ばれている。また、要望などがあり、懐かしいおやつを作り、希望に添うようにしている。</p>	○	<p>簡単なおやつと一緒に作って頂いた時は真剣に、また楽しそうな表情をされていた為、おやつ作りなどの機会も増やして行きたいと思う。</p>

グループホームあがたの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のサインを見逃さないよう注意し、ご利用者の排泄に関しての不快感を軽減できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者全員が何らかの介助を要する為、週3回の入浴日は決めさせて頂いているが、入浴の順番などはご利用者自身に確認し、実施している。	○	入浴に対し、ご利用者のご希望に添える様、時間帯など改善が必要な場合は対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムや環境を整え、個々の体調や希望に配慮し、休んで頂く等、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の残存機能を活かせる為の支援ができる様、心掛けています。また、レクリエーションにて、体を動かしたり、気晴らしができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名のご利用者は小額だが所持し、時々、小物類を購入される。また、他のご利用者は小額であるが施設にて管理し、出納簿に記している。社協の地域福祉権利擁護事業にも、依頼し管理して頂いている。	○	買い物の機会を増やし、自分で買える楽しみを支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望になるべく添える様、買い物や散歩の支援を行っている。意思疎通の困難なご利用者に関しては、体調などを考慮し、散歩を支援している。	○	今後も、ご利用者とコミュニケーションを取りながら、天候の良い日は日光浴や散歩、ドライブなど実施して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天候の良い日は、ドライブに行ったり、季節感を味わって頂ける様、外出の機会を設けている。	○	ご利用者全員が楽しんで外出出来る様、声かけし、生活への意欲や活力を今後も見出して行きたい。

グループホームあがたの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者への電話の利用制限などないことを伝えており、要望がある時はすぐに対応できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に関しては時間の制限はなく、ご家族の都合の良い時間にいつでも、気軽に立ち寄って頂く為、職員一同、快くお迎えできるよう、配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の人権尊重を最も大事にし、身体拘束のような人権を無視した行為を避けるよう職員全員が把握し、ケアに携わっている。	○	今後も人権尊重の有り方を考慮し、ご利用者らしさを大切に支援を行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が理解しており、日中の施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にご利用者の安全確保の為、巡回を行ったり、コミュニケーションを取ることで、ご利用者の状況把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態の変化の中で危険であろうと推測される物は、置き場所を変えたり、危険を回避する為の案を話し合い、事故防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一人一人がご利用者の状態を把握し、確認や配慮を行い、事故のない様、支援している。	○	今後もあらゆる面での注意を怠らないよう、職員一人一人の認識を高め、事故防止に努めて行きたい。

グループホームあがたの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変を見逃すことのない様、職員一人一人が注意をはらっている。また対応方法を定期的に確認している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に対する訓練も行っており、他機関との協力体制も整えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族に対し、ご利用者の状態を報告し、リスクに対する相談や質問にも応じ、お互いに納得できる対応方法を考慮している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、食事量など職員一人一人が体調の変化に注意し、体調不慮が見られる場合は話し合い、病院受診を行い、医師から指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診の結果、処方に変更ある場合は全職員への報告を行い、服薬内容の確認し、様子観察を常に行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排泄状況を把握し、医師との相談を行い、漢方薬等の服用や食事形態を見直し、対応している。また、排泄を促すよう、腹部マッサージを心がけて行っている。	○	今後も排泄状況の把握に努め、不快感の軽減を行うよう、支援する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施している。磨き残しや口腔内の異変がないか確認を行い、個々に応じた支援を行っている。		

グループホームあがたの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人一人の状態に応じ、職員・ご本人と話し合いながら、食事を提供し、体調に応じて水分量の確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前後の手指洗淨、外出後の手指洗淨、うがいを徹底している。風邪等の流行時期なども把握し、予防に努めている。ご利用者、職員のインフルエンザ予防接種も必ず実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場、器具などの衛生管理に努め、食品管理も毎日確認し、新鮮で安全な物を提供できる様、心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲には危険物のないよう配慮し、殺風景にならないよう、花など植え、暖かな印象がもてる工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者にとって、不快感のないよう配慮し、季節感の味わえる物を装飾し、楽しんで頂いている。また、居間は団欒の場として活用されており、コミュニケーションの多く取れる場として楽しまれている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室にて過ごされたり、ソファーに座られ、思い思いに会話をされている。職員にも気軽に声をかけて頂いている。		

グループホームあがたの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者本人の要望を取り入れ、使い慣れた物を配置し、居室の位置も要望をなるべく聞き入れ、検討しながら過ごしやすい空間を提供できるよう配慮を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内温度や湿度に配慮し、調節している。臭気予防等の為、その都度、換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせて、手すり等の設置や浴室などの安全確保と自立のできる環境を配慮し、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者の状態に合わせ、環境整備に努め、不具合が生じた場合は、その都度、話し合い、環境を整えている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設前を散歩したり、玄関前のプランターなどで花を育てたりと活動できるよう提供している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームあがたの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設ではご利用者の笑顔が多く見ていたいという観点から、コミュニケーションの機会を多くとり、ご利用者と共にゆっくりと過ごす時間などを大切にし、支援させて頂いている。また、要望や必要な支援について、早急に対応できる様、ご利用者・職員で話し合いを行い、支援方法を導き出している。